
第77期 中間報告書

(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)



証券コード5697

株式会社サンユウ

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループにおける第77期第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の事業の概況及び決算の結果についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ情勢及び急激な円安などに起因する資源・エネルギーの輸入価格の高騰により厳しい経営環境にありました。

わが国のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線業界の主要需要家である自動車業界では、昨年からの半導体不足が解消されないことに加え、中国ロックダウンによる部品供給不足により、自動車生産は当初予想より大幅なマイナスとなりました。

また、鋼材価格は前期に引き続き大幅な値上げ（35千円/トン）が実施され、ガスなどのエネルギー及び副資材も大幅な値上げとなりました。

このような経営環境下、当社グループは全社を挙げて販売数量の確保、固定費の抑制及び生産性の向上により内部コストの圧縮を推し進めるとともに、鋼材価格の値上げに伴う製品販売価格の改定及び加工賃の是正に努め収益の確保に取り組みました。

これらの結果、販売数量は53千トン（前年同四半期比7.1%減）と減少しましたが、売上高は11,304百万円（前年同四半期比12.3%増）となり、損益につきましては、加工賃の是正などによる収益改善効果もあり、営業利益は538百万円（前年同四半期比13.4%増）、経常利益は582百万円（前年同四半期比11.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は346百万円（前年同四半期比15.7%増）となりました。

わが国経済の今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルスの感染抑制策を継続しつつ、活動レベルの正常化を図っていくと思われませんが、一方でウクライナ情勢を含めた海外経済の不透明性及び更なる諸物価の上昇などの懸念要因があり、楽観視できない状況にあります。

当社グループにおきましては、全社一丸となって課題に取り組む所存ですが、2023年3月期の業績予想につきましては、売上高は23,000百万円（前期比9.2%増）、損益につきましては、経常利益は980百万円（前期比15.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は560百万円（前期比16.4%減）を見込んでおります。

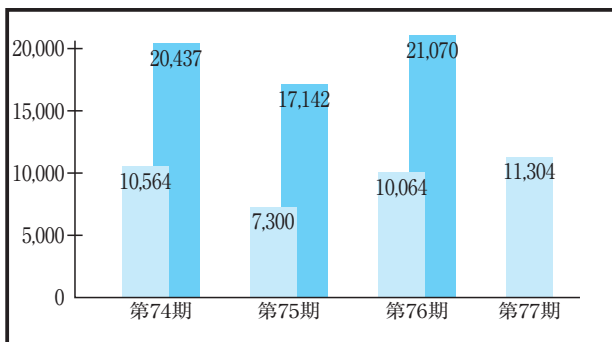
株主の皆様におかれましては、なにとぞ以上の諸事情をご賢察のうえ、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年12月

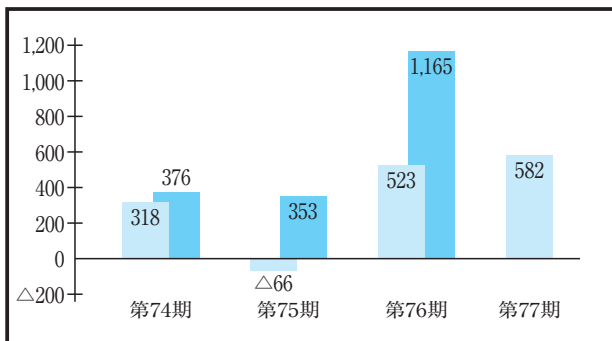
代表取締役社長 **西野 淳二**

連結業績の推移

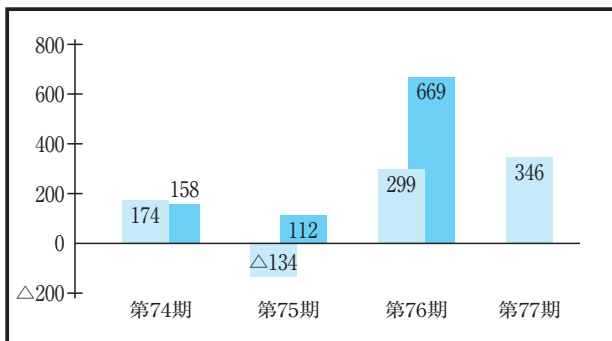
■売上高（単位：百万円）



■経常利益（単位：百万円）



■親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益（単位：百万円）



(注)△は損失を表しております。

事業の内容

●生産

大阪府内の2工場及び熊本県の九州工場を軸に、品質・数量ともに安定した効率的生産体制を構築しています。

需要家の求めるあらゆる用途や仕様に適合する優れた品質の製品を安定的・効率的に生産し、迅速・確実にお届けするために、大阪府内の枚方市と八尾市及び熊本県菊池市に消費地密着型のみがき棒鋼（普通鋼・構造用鋼、合金鋼、快削鋼、ステンレス鋼）と冷間圧造用鋼線（普通鋼・構造用鋼、合金鋼）の工場を展開しています。枚方市にある枚方工場では、みがき棒鋼の多品種生産を行うとともに精密加工により、高付加価値製品を産み出しています。八尾工場及び九州工場では、みがき棒鋼を生産するとともに自動酸洗設備及び熱処理炉を最大限に活用した冷間圧造用鋼線の生産により、自動車関連需要に対応しています。高炉・電炉メーカーの厳しい品質管理のもとで生産された優れた素材を使用することにより、良質のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線を生産し多くの産業界に提供しています。

●品質管理

鉄鋼メーカーと共同でよりよい品質の製品を開発しており、厳しい品質管理体制は需要家にも定評があります。

技術革新の著しい進展のなかで、製品に対する品質要求はますます高まっています。当社グループでは、高品質の製品を生産するために、その生命線ともいべき引抜ダイスの寸法精度を厳密に管理するとともに製品の寸法精度や形状精度を向上させ、表面きず等を低減させるために、徹底した工程内検査や厳格な出荷前検査を実施しています。特に表面きずについては渦流探傷機等を活用し、万全の注意を払って検査しています。また、鉄鋼メーカーとは新製品・新技術の開発計画、品質等について定期的に検討会を開催し、共同での改善・開発や共同品質管理体制を確立しています。

㈱サンユウにおきましては、ISO9001及びISO14001の国際規格を認証取得しており、今後とも品質の充実を図ってまいります。

●物流

業界随一の自動立体倉庫を軸に多品種の標準製品を常備在庫し、多様なニーズに即応できる全国的な物流・情報ネットワークを構築しています。

「必要なとき必要な製品を必要なだけ供給する」といった販売基本方針のもと、製品を供給するために、全国をカバーする物流・情報ネットワークを構築しています。その核となるのが、大阪府内2カ所に設けた立体倉庫で、常時9,000トンもの多彩な標準製品をストックしています。特に東大阪市に設置した業界初の自動立体倉庫では入出庫管理はすべてコンピューター化されているので、需要家が求める製品がどこにあるかを瞬時に検索することができるようになっています。その結果、効率的な搬出入作業が可能となり、近畿圏の即納体制を確立しています。また、北海道から九州まで、全国各地を網羅した地域特約店との関係を強化することにより、㈱サンユウの各営業店舗並びに子会社の大阪ミガキ㈱及び大同磨鋼材工業㈱の各拠点と合わせて全国的な物流・情報ネットワークを構築しています。

●技術

優れた良質の素材と最新の技術力、設備力で、高精度・高品質のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線を効率的に生産しています。

みがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線は、鉄鋼メーカーの優れた品質の熱間圧延材を使用し、冷間引抜加工等により生産しています。冷間引抜加工とは、厳密な寸法・形状の穴型をもつ引抜ダイスと呼ばれる超硬合金製の工具で、少し大きい寸法の素材を穴型を通して引き抜くことにより、穴型の寸法・形状に成型する加工方法のことをいいます。

このうち、みがき棒鋼は（引き抜き一矯正）工程または（表面切削（ピーリング）一矯正）工程により精密な寸法・形状に仕上げられた棒状の製品をいい、引抜機は細物用に使用する連続抽伸機と太物用に1本ずつ引き抜く棒鋼引抜機（ドロベンチ）の2種類を使用しています。当社グループでは、最新の連続抽伸機、棒鋼引抜機、ピーリング及び矯正機を導入し、精密で高品質の製品を効率よく生産し、さまざまな需要家ニーズに応じています。

一方、冷間圧造用鋼線は、自動酸洗設備で表面の酸化皮膜を除去した後、伸線機で引き抜くことにより精密な寸法・形状に仕上げられたコイル状の製品をいい、熱処理設備で熱処理を行うことにより、高品質の製品を生産し好評を得ています。

四半期連結財務諸表の要旨

第2四半期連結貸借対照表 (2022年9月30日現在) (単位:千円)

科 目	金 額
[資産の部]	
流動資産	13,786,510
現金及び預金	2,924,308
受取手形及び売掛金	6,020,951
棚卸資産	4,810,079
その他	31,170
固定資産	5,096,969
有形固定資産	4,686,837
建物及び構築物	1,308,121
機械装置及び運搬具	1,376,978
土地	1,865,970
その他	135,767
無形固定資産	105,971
投資その他の資産	304,161
資産合計	18,883,480
[負債の部]	
流動負債	8,213,743
支払手形及び買掛金	5,652,843
短期借入金	1,460,000
1年内返済予定の長期借入金	166,596
その他	934,304
固定負債	1,028,739
長期借入金	731,878
退職給付に係る負債	172,662
その他	124,199
負債合計	9,242,482
[純資産の部]	
株主資本	8,923,119
資本金	1,513,687
資本剰余金	1,303,508
利益剰余金	6,127,315
自己株式	△ 21,392
その他の包括利益累計額	4,994
その他有価証券評価差額金	4,994
非支配株主持分	712,883
純資産合計	9,640,997
負債・純資産合計	18,883,480

(注) 1. 連結子会社は、大阪ミカキ株式会社及び大同磨鋼材工業株式会社の2社であります。
2. 有形固定資産の減価償却累計額 13,380,978千円

第2四半期連結損益計算書

(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) (単位:千円)

科 目	金 額
売上高	11,304,780
売上原価	9,524,944
売上総利益	1,779,836
販売費及び一般管理費	1,241,563
営業利益	538,272
営業外収益	56,836
営業外費用	12,378
経常利益	582,730
特別損失	2,302
税金等調整前四半期純利益	580,428
法人税、住民税及び事業税	215,859
法人税等調整額	△ 24,328
四半期純利益	388,897
非支配株主に帰属する四半期純利益	42,209
親会社株主に帰属する四半期純利益	346,687

(注) 1株当たり四半期純利益

57円36銭

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) (単位:千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	439,908
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 245,711
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 239,472
現金及び現金同等物の減少額	△ 45,276
現金及び現金同等物の期首残高	2,969,585
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,924,308

会社の概要

2022年9月30日現在

社 名 株式会社サンユウ
 所 在 地 本社／大阪府枚方市春日北町3丁目1番1号
 電話：072-858-1251 FAX：072-858-2672
 設 立 1957年1月
 資 本 金 1,513百万円
 従 業 員 数 186名（単体）、293名（連結）
 事 業 内 容 みがき棒鋼の製造、加工及び販売
 冷間圧造用鋼線の製造、加工及び販売

重要な子会社の状況

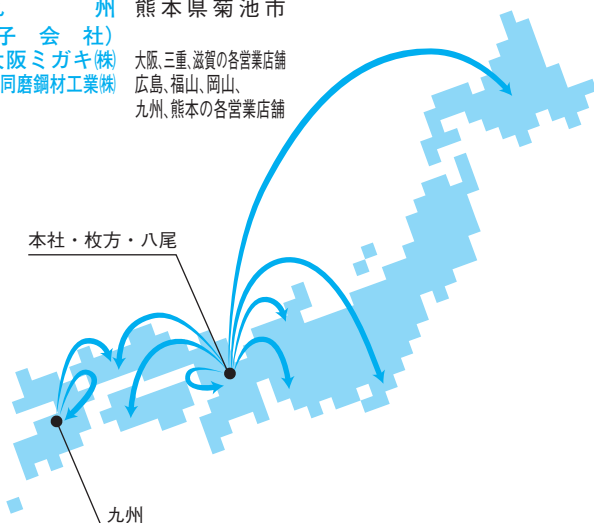
2022年9月30日現在

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主要な事業内容
大阪ミガキ株式会社	40百万円	67.5%	みがき棒鋼の製造及び販売
大同磨鋼材工業株式会社	20百万円	100.0%	鋼材の販売

主な事業所及びネットワーク

2022年9月30日現在

本 社 大阪府枚方市
 (営業店舗)
 枚 方 大阪府枚方市
 八 尾 大阪府八尾市
 九 州 熊本県菊池市
 (工場)
 枚 方 大阪府枚方市
 八 尾 大阪府八尾市
 九 州 熊本県菊池市
 (子会社)
 大阪ミガキ(株) 大阪、三重、滋賀の各営業店舗
 大同磨鋼材工業(株) 広島、福山、岡山、九州、熊本の各営業店舗



役 員

2022年9月30日現在

代表取締役社長	西 野 淳 二
取締役副社長	喜 多 章
取 締 役	加 藤 和 彦
取 締 役	水 野 由 実
取 締 役	清 水 良 寛
取 締 役	若 林 嘉 幸
常 勤 監 査 役	生 方 徹
監 査 役	藤 田 典 明
監 査 役	仲 山 隆 之
上 席 執 行 役 員	松 井 亮 一
上 席 執 行 役 員	八 木 信 郎
執 行 役 員	大 槻 晃 弘
執 行 役 員	笹 山 英 俊
執 行 役 員	向 井 徹
執 行 役 員	安 積 光 治
執 行 役 員	河 村 岳 史

(注) 1. 取締役清水良寛及び若林嘉幸の両氏は社外取締役であります。
 2. 監査役生方徹、藤田典明及び仲山隆之の3氏は社外監査役であります。

株式の状況

2022年9月30日現在

発行可能株式総数 19,344,000株
発行済株式の総数 6,091,000株

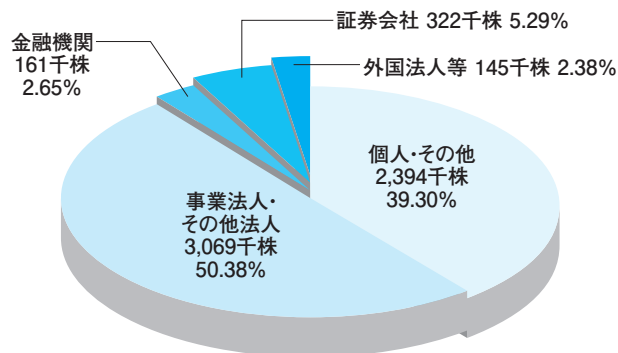
株主数 1,715名

大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本製鉄株式会社	2,035 千株	33.67 %
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	452	7.49
日鉄物産株式会社	250	4.14
村岡克彦	225	3.73
永田麻里	187	3.10
サンユウ従業員持株会	180	2.99
佐藤商事株式会社	180	2.98
柏木伸夫	135	2.25
株式会社りそな銀行	110	1.82
高島庄二郎	90	1.50

(注) 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(46,496株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当金 毎年3月31日

中間配当金 毎年9月30日

その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。

公告方法 電子公告により当社ホームページ (<https://www.sanyu-cfs.co.jp>) に掲載いたします。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

各種お問合せ先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
郵便物送付先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)

※受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様向けにIRメールを配信しています。

配信をご希望の方は、下記アドレスから簡単にご登録(無料)いただけます。

<https://rims.tr.mufg.jp/?sn=5697>

IRメール配信サービスは、三菱UFJ信託銀行株式会社が運営しています。

